

PCR検査の受託について

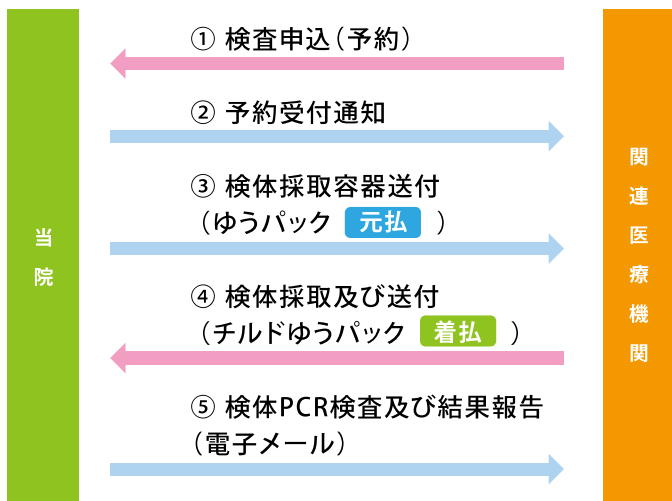
会計課

当院では、病院における診療科横断的な検査体制の構築及び新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」という。）医療の円滑な管理運営を行うことを目的とし、「COVID-19 検査センター」を診療支援施設として設置しました。

当センターでは、県内医療機関からの COVID-19 PCR 検査の受託に関する業務を行っており、術前スクリーニングなど無症状者を対象とする行政外検査として COVID-19 PCR 検査（だ液検体）を行います。比較的低い価格設定に加え、迅速に結果を通知しますので、当センターの受託検査を是非ご利用ください。

PCR検査（受託検査）実施フロー図

対象 関連医療機関において行政外検査（術前スクリーニングなど無症状者）で PCR検査を希望する患者



問合せ先

COVID-19検査センター TEL:080-7539-8296

メールアドレス：PCRcenter@med.shimane-u.ac.jp

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

8月15日～9月14日

対象者：一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

| 開催日 | 開催名 | 場所（★印 学外開催） | 対象者 | 主催者 |
|------------------------|---------------|-------------|-----|-----------------------------|
| 9/11（金） 15:00～16:00 | 誰でも参加できる糖尿病教室 | ゼブラ棟2階 だんだん | 一般 | 島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム |

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

Vol.82 08
2020
島大病院ニュース

2020年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2020年
8月
Vol.82

NEWS



CONTENTS

- ・島根大学病院の新型コロナウイルス感染対策について（7月～8月）
- ・COVID-19検査センター設置について
- ・PCR検査の受託について
- ・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

島根大学病院の 新型コロナウイルス感染対策について

7月～8月

病院長 井川 幹夫
いかわ みきお

7月に入って出雲市1人、雲南市で3人の新型コロナウイルス感染者が発生し、31日には全国の新規感染者が1,580人と1日あたり過去最多となり、都市部から地方まで感染拡大傾向が明確となっています。また、感染経路不明者、高齢者の感染も増加傾向にあることから、一旦緩和していた病棟の面会制限を厳しくさせていただいております。具体的には、個室は島根大学が定めている特別感染警戒地域（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、岐阜県、静岡県、大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県、広島県、福岡県、佐賀県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）、感染警戒地域（北海道、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、長野県、石川県、三重県、鳥取県、岡山県、山口県、徳島県、高知県、長崎県）からの訪問は原則お断りしています。4人部屋については、これまで通り面会制限を継続していますが、面会制限により静かな療養環境が保たれているとの入院患者さんの声が多く、さらに病棟へのWi-Fi設置によりオンライン面会が可能となっている点を考慮したものです。病院職員の国内移動による院内への感染持ち込みを防止するため、特別感染警戒地域から帰帰した場合にはPCR検査の受検または10日間の在宅勤務としています。医学科5年生、6年生と看護学科の4年生については、7月6日から当院の病院ゾーンへの立ち入りを認めていますが、病院見学等で特別感染警戒地域に出かけた場合もPCR検査の受検か10日間の自宅待機を課しています。

PCR検査については、新規感染者の接触者を対象とした検査に加えて、自主検査、術前スクリーニングに活用されるなど検査の目的が多様化しています。当院では新たにCOVID-19検査センター（矢野彰三センター長、荒木剛副センター長）を設置し、核酸・タンパク質精製装置、PCR測定装置を導入して、週90件の検査が可能ですが、これから臨床検査技師の増員、検査機器を追加導入して実施件数を週約400件まで増やす予定で、さらに抗原の定量検査も実施する体制とし、いずれも唾液をサンプルとすることを標準とします。県内の医療機関からのPCR検査を当院が受託し、検査結果を迅速にお知らせする体制が整った段階でご案内しますので、必要に応じてご依頼いただきますようお願い致します。また、宿泊施設等、地元企業の従業員を対象としたPCR検査にも対応することも考慮しており、これも島根大学として地域貢献の一環としてとらえています。

今後も新型コロナウイルス感染の拡大が危惧されている中で、8月以降、感染リスクを最小化しつつ、本来の大学病院としての診療を取り戻すとともに、重点医療機関として、県の病床確保計画に沿った専用病棟を設置し、重症患者を受け入れます。第二次補正予算からの交付金を活用した医療機器の整備、特にECMOの設置台数を増やし、日本COVID-19対策ECMOnet主催の研修会を救急医学の岩下教授が中心となって本学医学部で開催するなど、第2波に備えた重症患者治療の体制強化を図っているところです。

地域の医療機関の皆様には、今後ともご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

COVID-19検査センター設置について

COVID-19検査センター センター長 准教授 矢野 彰三
やの しょうぞう

新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」という。）が世界的に拡大し、7月1日現在までに1千万人以上の感染者と50万人以上の死者が確認されています。わが国でも感染は完全には制圧されず、第2波到来が危惧されている状況です。ここ数か月の間に検査機器や試薬が次々と発売・保険適用になり、検体は鼻咽頭拭い液から唾液が主流になってきました。

当院では、COVID-19 PCR検査のため新規機器の購入、臨床検査技師の増員など遺伝子部門の拡充を図ってきましたが、このたびCOVID-19医療の円滑な管理運営を目的として、COVID-19検査センターを院内に設置することになりました。センターでは、唾液採取からPCR検査まで迅速に実施できるようになっており、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科等の感染リスクが高いとされる手術前患者を対象に現在PCR検査を行っています。無症状の感染者を術前に診断し、手術を中止または延期することにより、院内感染の予防に役立つものと考えられます。また、院外からの受託検査として、すでに保健所との協議を行っており、今後は院外の医療機関の受託についても開始する予定です。比較的低い価格設定に加え、迅速に結果を返却致しますので、当センターの受託検査を是非ご利用ください。

センターでは、感染制御部、手術部、救命救急センター、呼吸器・化学療法内科等と診療科横断的に連携を図りながら、検査オーダーの電子カルテ化を推進し、効率的な運用を目指しています。県民の健康と医療体制の維持に貢献できるよう、益々努力して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



バイオセーフティーレベル3検査室



自動核酸抽出装置



PCR検査装置



唾液検体採取室



島大病院ニュース 2020年8月

ご報告

総合医療学講座教授就任のご挨拶

総合医療学講座 教授 まきいし てつや
牧石 徹也



2020年7月1日付で島根大学医学部総合医療学講座教授を拝命致しました。医学部附属病院では総合診療科を担当致します。総合診療医を志す若手を育成することが私に与えられた使命だと考えております。やる気と元気は十分にありますが、まだまだ若輩でありますし浅学非才の身でもあります。また、総合診療医の育成には様々な臨床の場での経験が必須であり、決して大学病院のみで完結できるものではありません。様々な臨床現場でご活躍されている皆様方のご指導が必要でございます。ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

簡単な自己紹介をさせていただきますと、私は1997年に滋賀医科大学を卒業し、その後は大学院での4年間を除きますと、ほぼ市中病院にて臨床と研修医教育をメインにキャリアを重ねて参りました。総合診療の中では病院総合診療分野(特に高齢者診療や感染・不明熱など)を得意としておりますが、家庭医療・遠隔医療にも興味を持っており目下勉強中であります。プライベートでは走ることが趣味で、数年前には100kmウルトラマラソンを完走しました(二度と出場するまいと心に決めました)。走りながら、膝が痛い、腰が痛い、家族やお金のことで頭が痛いなどイタイことだらけですが、いろんなことに思いを巡らせながら走っているうちに「何とかなるかな」と少し気が楽になる感覚が好きです。

アフリカの諺に「If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.」というフレーズがあるそうです。島根の地域医療を支える超長距離マラソンにぜひ私も加えて頂き、皆様とともに高みを目指して歩んで参りたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。



島大病院ニュース 2020年8月

お知らせ



島根県医師会・歯科医師会会員様へ 休日人間ドックの実施について

臨床検査科 診療科長 准教授 やの しょうぞう
矢野 彰三

当院では、2014年度より島根県医師会・歯科医師会の会員様限定の「休日人間ドック」を、医師会・歯科医師会を通じて募集しており、毎年多くの会員様に受検頂いております。今年度は新型コロナウイルス感染症(以下、「COVID-19」という。)拡大防止の観点から人間ドックを中止する旨をすでに連絡させていただいたところですが、今年度の「休日人間ドック」につきまして、1回のみではありますが、急遽実施する予定といたしました。

人間ドックの内容には基本コースとオプションコースがありますが、今年は、特別なオプションとして、COVID-19のPCR検査を追加する予定としております。医療者の感染リスクは、一般人よりも高いといったデータもありますので、日常診療でご多忙な先生方には、この機会に唾液PCR検査を受けていただき、安心して診療していただきたいと思います。なお、感染対策について、当院では細心の注意を払っておりますが、受検時の感染予防徹底についてもご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

島根県医師会・歯科医師会会員の皆様におかれましては、ご自身の健康管理に当院の「休日人間ドック」を是非ご利用いただきたいと存じます。今年は十分な予約枠が確保できませんので、この機会を逃さぬよう、お早めにご予約ください。

ご報告

島大病院ニュース

2020年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ

島大病院ニュース

2020年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



うさぎ保育所に 折り紙・ぬり絵の寄贈がありました

総務課

2020年6月24日に、株式会社報光社から当院うさぎ保育所へ保育用教材として折り紙、ぬり絵の寄贈がありました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、いまだ油断のできない状況が続く中、子どもたちが屋内で楽しく過ごせるようにとのお気持ちから、寄付していただきました。

この度贈呈されたのは、ぬり絵8種類80セット、折り紙11,000枚、お持ち帰りセット(ぬり絵8種、折り紙50枚)60セットです。

うさぎ保育所の今岡純子園長は「寄贈していただいた日の夕方の自由遊びの時間より、早速使わせていただきました。ぬり絵は数種類の絵柄があり、「どれからしようかな～」とまずは選ぶところからワクワクしている様子。色鉛筆を使って、男の子も女の子も自分なりの作品を仕上げていました。中には間違い探しを楽しめる絵柄もあり、二つのことを同時に楽しんだりもしていました。自由紙でのお絵描きや折り紙なども子どもたちの大好きなあそびの一つです。おかげで、外遊びができない日も楽しい時間を過ごすことができ、とても喜んでます。ありがとうございます。」と話していました。



ご報告

新しいタイプの抗がん剤について

先端がん治療センター センター長 教授 たむら けんじ
田村 研治

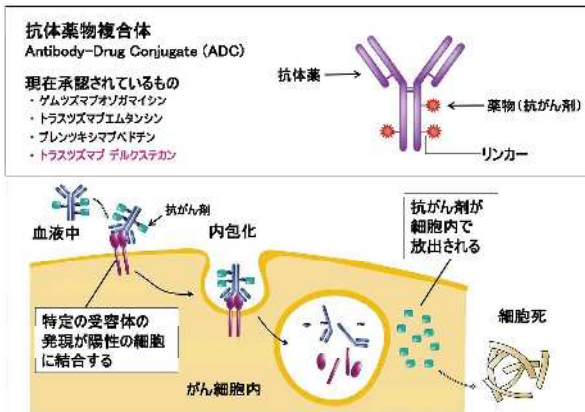
2020年3月25日、第一三共株式会社が開発したトラスツマブ デルクスカン(商品名:エンハーツ)が、HER2陽性の手術不能又は再発乳がん承認されました。この薬剤は、日本から世界に先駆けて開発されたもので、私が、国立がん研究センターに在籍していた時に主任研究者として関わりました。

トラスツマブ デルクスカンは、抗体薬物複合体(Antibody-Drug Conjugate; ADC)というタイプの抗がん剤です。現在、抗体薬は、がんの治療薬として広く用いられますが、単独では奏効割合が高くなく、多くは抗がん剤と併用して用いられます。その場合、抗がん剤自体は血液中より正常細胞にもとりこまれ、副作用の原因となります。

ADCは抗体薬にリンカーという構造物を介して抗がん剤を結合させたものです。投与後血液中では抗体薬と抗がん剤の結合が強いので、抗がん剤の正常細胞への移行を制限し副作用を軽減します。がん遺伝子受容体(HER2など)に結合し「内包化」という現象によりがん細胞内に取り込まれた後、リンカーから抗がん剤が外れ細胞内に放出されます。特定の遺伝子発現のあるがん細胞へのドラッグデリバリーを高め、抗腫瘍効果を高めることが可能となります。

ひとくちにADCといっても、血液中での抗体薬と抗がん剤結合の安定性、又、がん細胞へのデリバリー効率などで性能が左右されるので、各企業が技術開発に取り組んでいます。現在までに4種類のADCが承認されています。がん種や受容体を変えて、60種類以上のADCの治験が進行中です。

ADCは効果を高めるだけでなく、副作用の軽減という大きなコンセプトがあります。抗がん剤を「むきだし」で使用するのはなく、抗体薬の中に組み込んで副作用を少なくすることが、将来のがん薬物治療の主流となるかもしれません。新型コロナウイルスの状況下では、白血球減少症などの副作用が強い薬剤は使用しにくくなります。ADCという新しいタイプの抗がん剤に注目です。



Laetitia E. Lamberts et al. J Clin Oncol. 2015;33:1491-1504より改変





ご報告

(人工内耳、骨固定型補聴器)

人工聴覚器のご紹介

耳鼻咽喉科 診療科長 教授 さかもと たつり
坂本 達則

難聴への対応としてまず重要なことはその原因を調べることで、原因に対する治療が難しい場合には補聴器を試みます。しかし、補聴器で十分な効果が得られない場合には、人工聴覚器が必要です。内耳の疾患によって生じる感音難聴に対する人工内耳や、中耳や外耳の疾患によって生じる伝音難聴に対する骨固定型補聴器などが実用化され、保険適用にもなっています。

人工内耳(図1)は、障害のある蝸牛に電極を挿入し、体外装置(プロセッサ)で音の信号を処理し、対応する電極で聴神経を直接刺激します。成人や小児の両側・高度～重度感音難聴の患者さんに適応があります。手術後、リハビリを経て徐々に言葉として聞こえるようになります。

骨固定型補聴器(Baha®)(図2)は、中耳や外耳の問題による両側難聴で、鼓室形成術や補聴器で聴力の改善が得られない患者さんを対象としています。頭蓋骨に埋め込んだ骨導端子を振動させることで直接蝸牛に音の振動を伝達して聞き取ります。手術手技は比較的容易で、局所麻酔で行うことができます。

島根大学病院耳鼻咽喉科ではこれらの人工聴覚器の適応診断、手術、術後のリハビリテーションに対応できます。患者さんのQOL向上のため、ご紹介いたしますようお願いいたします。

(イラストは、日本コクレア(株)提供)



ご報告

「ちょっと気になる健康講座」もオンライン！ 病院ホームページで元気にやっています！

総務課

毎週木曜日、院内ロビーで元気に開催していました、おなじみ「ちょっと気になる健康講座」も新型コロナウイルス感染予防のため、当面の期間、院内ロビーでの開催を見合わせています。毎週楽しみに聴きにいられていた方も、寂しい気持ちになられているかもしれません。

緊急事態宣言で『ステイホーム』といわれた流行のさなか、対面での交流は制限されましたが、その一方で、インターネットを用いたオンラインでのコミュニケーションが盛んになりました。

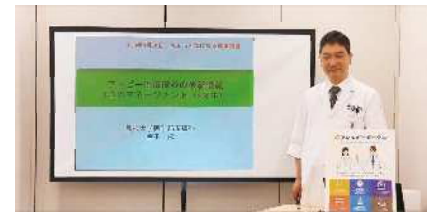
「よし、外出もままならないこんなときだからこそ、皆さんに元気になってほしい!」との思いから、「健康講座」も動画を撮影してYouTubeに掲載し、それを病院ホームページに掲載することになりました。

撮影の時は、担当講師も多少緊張気味です。発声練習などのリハーサルもします。時には、館内放送が入ってNGになったり、カミカミで笑ってしまったり。ロビーでの対面講座さながら、元気な姿で皆さんに健康をお届けしたいといつも緊張しながらスタンバイしています。

何度でも繰り返し見られるのがオンラインのよいところ。何度でもいろいろな講座を聞いて病気の予防にお役立てください!



第306回(4月23日実施)放射線治療科 准教授 玉置 幸久
「切らずに治すがん治療～放射線治療のおはなし～」



第307回(4月30日実施)皮膚科 准教授 金子 崇
「アトピー性皮膚炎の最新情報 4つのマネージメント(4マネ)」

島大病院 ちょっと気になる
健康講座



このQRコードから
スマートフォンでも
見られます。





島大病院ニュース 2020年8月

ご報告



出雲キャンパスクリーンデー (6/24)の実施について

よねはら まさたか
会計課施設管理室 室長 米原 昌隆

6月5日は環境基本法で定められた「環境の日」です。これに基づき6月は「環境月間」と定められています。この月間に合わせて島根大学医学部では毎年出雲キャンパスクリーンデー（構内一斉清掃作業）を実施しています。元々は医学部区域を中心に実施してきましたが、3年前から活動が始まった附属病院の環境整備ボランティアの清掃作業と連携し、附属病院区域の環境整備の充実を図るため、出雲キャンパス全体の取組として6月24日に2020年度第1回出雲キャンパスクリーンデーを実施しました。

昨今の新型コロナウイルス感染症の状況下では学外ボランティアによる清掃も軒並み自粛されているため、区域によっては草木の繁茂が著しい状態でした。当日は天候にも恵まれ、過ごしやすい気温の中、ソーシャルディスタンスに配慮しつつ約160名の職員が普段は診療器具を持つ手を鎌や箒に持ち替え、医学部の建物周辺や附属病院建物に隣接した南側や看護師宿舍周辺の除草及び回収作業に従事し、さっぱりとした景観になりました。



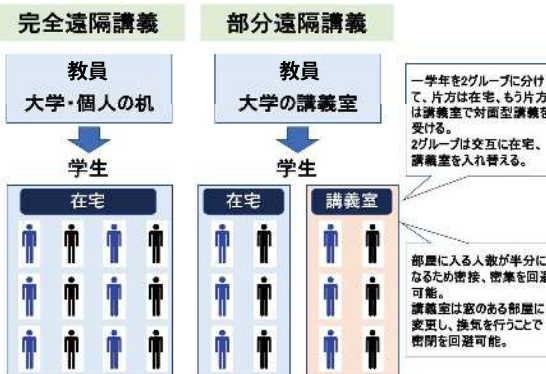
島大病院ニュース 2020年8月

ご報告

Withコロナ時代の遠隔講義について

いそべ たけし
病院長補佐、呼吸器・化学療法内科 教授 磯部 威

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19という。）の影響は至る所に生じており、医学、看護教育の現場に与えた打撃は極めて大きい。大学の講義室、実習室は三密（密接、密集、密閉）の回避には極めて不都合な構造となっている。医療は従来密室で行われ、臨床実習の現場となる病院の病棟、病室、外来の診察室、検査室など、まさに三密を作るための部屋である。急に改造するスペースも予算もないので、教育者—学生、あるいは医療者—学生—患者さんを空間分離してICT（情報通信技術）で繋ぐ方法が試みられている。具体的には、従来講義室で対面型で行っていた授業を、ビデオ会議ツールと呼ばれるシステムを用いて受け手となる学生に配信するもの（図左）である。遠隔講義はTVに例えると、生放送と録画放送の二通りの配信方法がある。録画した講義は、YouTubeのように繰り返し見ることが可能である。ICTの進歩によってパソコン（またはタブレット）とネットワーク環境があれば実施可能であるが、学生の受信環境は様々で、自宅にネットワーク環境が無い、あるいはあっても受講困難（途中で途切れる、動作が遅いなど）な学生も少なからずいる。教員側も不慣れな作業であり、画像や音声は明瞭に届いているのかという不安は常にある。また、従来は教室で問題用紙と回答用紙を配布していた試験（講義科目に対する評価）の実施が、学生を一堂に集めることができないため困難となっていることも課題の一つである。また、地域の感染状況などを考慮し、学生が構内に立ち入り可能となった際には、一学年を2グループに分けて、半分は在宅、残り半分は対面型の講義を学内で実施すること（図右）も検討している。一方で、基礎医学に必要な病理、解剖などの実習は実際に手を動かして顕微鏡、解剖器具などを用いて行う必要があり、在宅での実施は困難である。また、病院内で行っていた臨床実習については、患者さんの個人情報保護の観点から在宅での実施は不可能である。私見ではあるが、現在行われている医学的知識と診療態度・技能を評価する全国共用試験に合格した学生は、Student Doctorとして研修医と同様に、COVID-19とは関係なく、病院の実習を受けることができるようにすべきであろう。またそのために事前にCOVID-19を含む感染症に関する、十分な感染対策の講義を実施し、共用試験に評価として取り入れることが必要である。末筆とはなるが患者さん、ご家族には学生を育成するという視点から、本件へのご協力もいただければ幸いです。



（この部分のテキストは上記の長い段落で既に記載されています）



2020年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2020年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



ご報告

島大病院ニュース 2020年8月

病院エリアでの 臨床実習・臨地実習を再開しました

医学部新型コロナウイルス対策委員会 医学部長 おにがた かずみち
鬼形 和道

臨床実習・臨地実習は病院エリア内で行う実習であり、医療人育成の過程で必須の時間です。今回の感染拡大に伴い、これらの実習は「オンライン実習」の形を取らざるを得なくなりました。学生諸君と共働して、5月11日から「オンライン実習」を開始できました。しかし、学生と教員両者にとって初めての取り組みであり、その実習内容は十分と言えず課題も山積みとなりました。

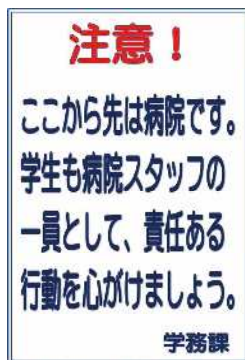
6月上旬、委員会は「臨床実習班」を編成し、7月の病院エリア内での実習の再開に向けて準備を始めました(図1)。中旬には5・6年生全員を対象としたオンライン説明会を行い、実習開始まで2週間の健康観察期間も設けました。およそ10か月後には研修医として診療の現場で働く6年生に、そして一度も病院エリア内での実習の経験のない5年生に、できるだけ早期に臨床実習を提供したいという多くの教員の熱い思いがありました。

7月6日、病院エリアと学部エリアを分ける自動ドアの横に、2枚のポスターが貼られました(図2、3)。学生が病院エリアに戻ってきたことを嬉しく思います。そして、PCR検査も含め臨床実習の再開に多大な支援をいただいた病院長に感謝致します。

委員会は、4月から出雲キャンパスの学生および教職員に向けたメッセージを、毎週金曜日にHPに載せています。私たちの活動を、皆さんにご確認いただければ幸いです。



(図1) 予告 7月6日(月)から



(図2) 注意! ここからは



(図3) 学生の皆さん



七夕の花火大会

C病棟6階(小児病棟) 看護師長 ながた りか
永田 里佳

7月7日、七夕の夜空に花火があがり、入院中の子どもたちと家族を勇気づけました。

2007年から毎年5月5日は、出雲市大社町在住の花火師 多々納恒宏さんらのボランティア団体「こどもの日花火の会」による「こどもの日花火大会」が開催されています。

今年は、新型コロナウイルス感染症防止対策のために中止となっていました。ご厚意で七夕の日に花火をあげて頂くことになり夜空に75発の花火が咲きました。

当日は天気不安定で、ぎりぎりまでどうなるか心配していましたが、花火が終わって間もなく雨が降り出すという奇跡のタイミングでした。

病棟では、密を避ける方法を考え、個室の患者さんには部屋の窓から、花火が見えない部屋の患者さんには、プレイルーム・食堂・多目的ルームに分散して出してもらい、生後11か月から16歳までの約20人の患者さんとそのご家族が、花火を楽しみました。

世間ではお祭りや花火大会が中止となり、子どもさん達も残念がっていましたが、「入院中に花火が見れるなんてすごい!」「今年の花火は最初で最後かもしれない!」と、歓喜の声がたくさん聞かれました。

まだまだ、新型コロナウイルスの終息はみえず、病院内でも制限生活が続いています。

「早く平穏な日常に戻りますように」と願いを込めた七夕でした。



ご報告
島大病院ニュース

編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告
島大病院ニュース

2020年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2020年8月

ご報告

臨床研究・治験における 電子申請システムの導入について

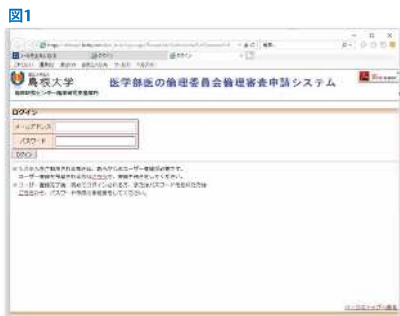
臨床研究センター センター長 教授 おおの さとし
大野 智

平素は臨床研究・治験の推進にご協力を賜りありがとうございます。

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および「臨床研究法」の施行により、臨床研究を実施する際に遵守すべきルールが増えました。これは研究責任者・医師への負担増加につながってしまうことは臨床研究に携わったことのある先生であれば既知の事柄だと存じます。また複数のプロジェクトに参画している先生にとっては、進捗状況の一元管理に苦慮しているかもしれません。このような状況を鑑み、倫理委員会申請に関する研究者の負担軽減を目的に電子申請システムを導入することになりました。またシステムの導入によって実施状況報告書の催促、研究終了日の事前アラートなどもサポートされ、指針から逸脱することなく臨床研究を遂行できることが期待されます。

医薬品等の製造販売承認申請に必要な治験においては、依頼者である企業の視点から、電子申請システムの導入の有無が治験を依頼するかどうかの判断に影響することが指摘されてきています。また治験実施に伴うペーパーレス化に寄与することは言うまでもありません。

導入される電子申請システムは、倫理指針の対象となる臨床研究は「BIGVAN (ビッグバン) (図1)」、治験は「Agatha (アガサ) (図2)」になります。BIGVANは秋頃の本格導入を目指して準備を進めています。Agathaは今年度下半期以降、新規に依頼のあった治験から順次導入を予定しています。実際の導入にあたっての説明会開催は改めてご案内させていただきます。



島大病院ニュース 2020年8月

ご報告

病棟のシャワー室脱衣場に ダイソンの羽なし送風機を設置しました

患者満足度向上ワーキング

各病棟の共通シャワー室の脱衣場は以前から夏場になると「狭くて、熱気で曇りやすいため、せっかくシャワーを浴びても、暑くて汗が出てしまう」との意見を患者さんより頂いておりました。

換気量を少しでも増やそうと思っても、現有の換気設備では、能力が限界に達しており、増やすことができず、市販の扇風機では指のケガなどの安全面が心配で、さらに壁掛け型は設置場所に制限があるため設置できません。脱衣場の対応には苦慮していました。ある日テレビを見てみると、ダイソンのコマーシャルが流れてきて、病院内で安心して利用できる商品として、羽なしの送風機を使用してみてもいい立ち、早速地元の家電量販店で送風機の展示品をチェックしました。



ダイソン独特な楕円の筒から強力な風が発射され、思った以上に心強い感じでありました。もちろん羽根が無いので、送風機に手が当たってもなんらケガもせず安心で、更に簡単に移動もでき、風向きも微妙に調整できる。ご年配の方でも安心して利用ができ、狭い脱衣場にはぴったりの商品でありました。また、おまけに寒い時にヒーターに切替することもできるため、冬場でも重宝しそうです。

早速購入して、試しにA B病棟の5階に設置してスイッチON。量販店で操作した時の涼しさがよみがえり、いい塩梅に風が来ます。ご利用された患者さんの意見もなかなか好評でありました。7月中にはA B C病棟のシャワー室の更衣室すべてに設置しました。

いくら送風機を凝視しても、いまだに風が発生する原理がわかりません。皆さんわかりますか？風にあたりながら考えてみるのもいいかもしれません。

ご報告
島大病院ニュース

2020年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告
島大病院ニュース

2020年8月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





認知症疾患医療センターでの 運転免許相談について

認知症疾患医療センター

高齢化に伴い認知症の患者数が増加の一途をたどり、運転免許を保有していて認知機能が低下している方も多くなっています。2017年3月12日に改正道路交通法が施行され、75歳以上の高齢者に対する免許更新が厳しくなりました。認知症が疑われ第一分類と判断された場合は医師の診察を受けることが義務化され(図)、医療機関を受診しなければならない高齢ドライバーが増加すると予測されました。

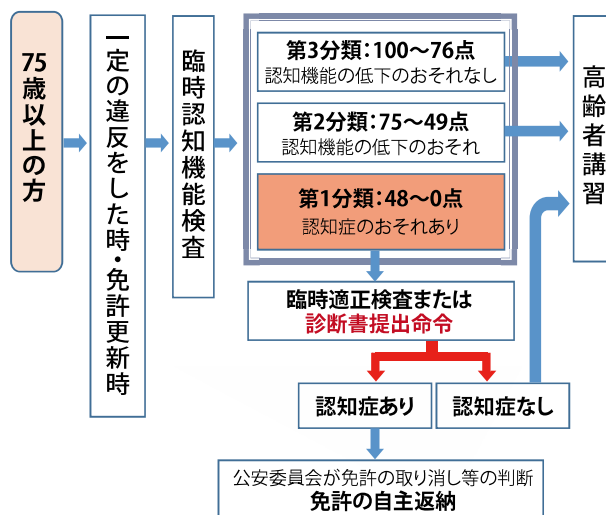
認知症疾患医療センターでも2019年度、運転免許に関する相談は29件、認知症疑いによる診断書提出命令のために「もの忘れ外来」を受診し、診断書を作成した件数は13件でどちらも2018年度の約3倍に増加しました。

受診後、認知症の診断で運転免許を自主返納される方や、診断書を提出し運転免許の取り消しになる方もおられますが、軽度認知障害の診断で半年ごとに診断書を提出して運転を続ける方もおられます。

免許返納に至るには困難も多く、運転免許がなくなることはご本人はもちろん、ご家族にも大きな影響を与え、日常生活、仕事、趣味や受診など支障を来すことがあります。そのため認知症疾患医療センターでは本人・家族の困り事に応じて、関係機関と連携を図っています。

高齢者の運転免許については地域関係者の方々の関心も高く、今年度の認知症研修会で取り上げる予定でしたが新型コロナウイルスの影響で中止となりました。今後開催が可能になりましたら是非ご参加いただき、島根県における認知症の人と運転について検討できる機会にさせていただければと思います。

図 高齢者の運転免許と認知機能検査



問合せ先 認知症疾患医療センター TEL: 0853-20-2630

